2018年9月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第500号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

『堀越千秋画集』を作る

文・大原哲夫

一肌脱ぐ覚悟

「それだけはやめたほうがいい」

私が堀越千秋の画集を作るという話をしたとき、友人にそう止められた。

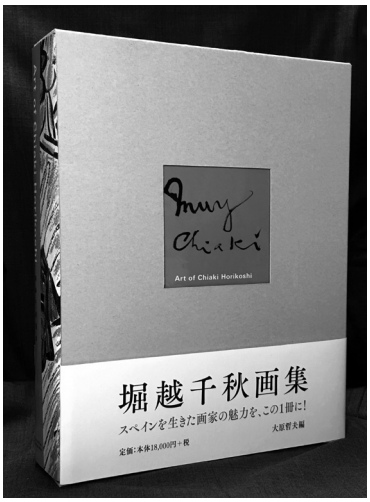
というのも無理はない。昨今の出版事情の中、大手出版社でもやらない個人画集を個人営業の編集室で出すなどというのは、無謀この上ない、赤字を背負うだけだと忠告された。

しかし、「でも、きっとやるよね」と私のことをよく知っている友人は、別れ際にそう言った。そして、彼の言った通りになった。

大手出版社を卒業して10年、編集室を作り、物書きや音楽プロデューサーの仕事をし、吉田秀和『永遠の故郷』、林光『光さんの贈りもの』、『北村太郎の全詩篇』、『モーツァルト・伝説の録音』といろいろな仕事を手がけてきたが、よせばいいのに、極端に費用がかかるのを承知で、本格画集に取り組むことになった。それにはこんな事情があった。

友人の画家・堀越千秋が「画集を作ってくれ」と頼みに来たのは、2016年の春のことだった。以前から彼の画集の話はあったが、結局は宙に浮いてしまっていた。売り上げしか興味を示さぬ昨今の出版社は、どこも個人画集などに興味を示さなかったのだ。 改めて、堀越と二人で出版を引き受けてくれるところを探したが、いずれからも断られた。画集を作るための資金集めもいろいろ算段したが、それもなかなかままならなかった。

堀越千秋が末期癌であることを自ら告白したのは、その年の6月だった。2年前大腸癌の手術をし、もう回復していたと言っていた堀越だったが、癌は彼の体内深く潜行しており、余命半年だと医者に宣言されたと言う。こうなったら私が出版するより他ない。私は一肌脱ぐと覚悟を決めたのだった。



大原哲夫編『堀越千秋画集』A4判、総576ページ、うちカラー504ページ、収録作品598点／大原哲夫編集室発行／税込み定価19,440円／ISBN 978-4-907523-03-9

風狂の画人・堀越千秋

画家・堀越千秋といっても、知らない方もおられるかもしれない。彼はむしろ物書きとして知られていたりする。朝日や読売の日曜版に、軽妙洒脱なエッセイを書いていた。「週刊朝日」で2年間連載した「美を見て死ね」の筆者だと言うと思い当たる方もあろう。またANAの機内誌「翼の王国」の表紙絵を10年にわたり描いていたので、あの表紙の画家かと思い出す方もおられよう。フラメンコの分野では彼は相当に著名である。専門誌「パセオフラメンコ」に20年近く連載をし、自らはカンテ（フラメンコの踊りにつける歌）を歌った。スペインでは歌手としてのほうが有名なくらいだ。

堀越千秋はもともと、東京芸大の油画科大学院を卒業、1976年にスペイン政府給費留学生としてマドリードにわたり、彼の地で研鑽を積んだ画家である。そのまま行けば、アカデミズムの世界でも名を成したであろう逸材だった。ただ彼はその道を歩まなかった。いかなる画壇にも、絵描きのグループにも属さず、一切の公募展に応募することもなく、彼の言葉を借りれば「便所の裏のような」画壇、俗世間とは一線を画し、独自の絵画世界を築いていった。

現代の日本で、世界的に見ても堀越千秋のような画家を見つけることは難しい。大概は、画家といえども絵筆一本とはいかず、美大の先生をしたり、何がしかの給料生活者になっている。彼はいっさいの宮仕えをせず、自由を愛し、虐げられし者に優しく、権力の横暴を忌み嫌った。さしずめ江戸時代なら、各地の寺々を渡り歩き、一宿一飯のお礼にふすま絵を残した孤高の絵師、一筋縄ではいかない風狂の画家といったところだろうか。

バッハやモーツァルトの曲は最初の一音を聞いただけで、彼らの作品であることがわかるように、堀越の作品もまた一瞥しただけで、 他の誰でもない堀越のものだとわかる。1990年にはピカソやミロやタピエス、クラーベらと並んで堀越千秋を含む5人展をしているのである。彼らの作品と比べて何の遜色もない。堀越千秋はこんな画家であった。

堀越千秋、マドリードで亡くなる

私と堀越との出会いは25年前にさかのぼるが、2001年に私が『武満徹全集』を作るときに装丁画を頼んだのが堀越千秋だった。この全集は経済産業大臣賞を受賞し、ライプツィヒで開かれた“世

界で最も美しい本コンテスト”に日本を代表して出品されたのだった。堀越に借りがあるというわけではないが、堀越千秋と堀越の絵に私は惚れ込んでいたのだった。

だから彼の画集を作るのは、必然と言えば必然、運命と言えば運命のようなものだった。2016年10月、画集編集に取り掛かかろうとした矢先、彼がマドリードで倒れたと知らせがはいった。私は画集の束（つか）見本を持ってすぐマドリードに飛んだ。これを見れば安心して病に打ち勝つのではないかと思ったのだった。もちろん彼は喜んだ。その時会えたのが最後だった。私が日本に帰ってから10日ほどした10月31日、彼が亡くなった。まだ67歳の若さだった。

「おーい、画集ができるまで待っていると言ったじゃないか」 あれから1年半、私は画集作りに没頭した。何しろ「放浪派」の画家である。作品のリストなど、何も残してはいない。方々に散らばっている。油彩、ミックストメディア、リトグラフ、木版画、絵本や雑誌の原画、私邸やレストランやクリニックの壁画、本人が「国宝」と称した焼物、20メートルはあろうかというフラメンコの舞台画、膨大なスケッチブック、 堀越はピカソも見紛うほど膨大な量の作品を残している。さらに絵筆をペンに持ち替えて書いたエッセイ、雑誌連載、単行本、絵本など、これもまた沢山ある。

調査、執筆からデザインまで

画集を編纂するために、これらの作品調査、収集、そしてさらには撮影に

堀越千秋、 2013年、大原哲夫編集室にて

ほぼ1年を費やした。もちろん、私が見たのは堀越千秋の生涯にわたる作品のその一部にしか過ぎないが、それでも、スケッチの類も入れれば数千点の作品を見たことになる。さらには編集過程で芸大時代に出会った恩師の解剖学者三木成夫に宛てた数十通の手紙、芸大1年生の時の三木に提出したレポートなど、貴重な資料を発見した。

私は作品の撮影と並行して堀越の作品を分類し、原稿を執筆することにした。堀越千秋という希有な画家が、どのようにして自らの作品世界を形成していったのか。画家というものの凄まじい生き方を知ることになった。

今まで100冊を超える音楽書、美術書を作ってきたが、今回は調査、執筆、編集だけでなく、割り付け、装丁、デザインも合わせて、自らすることにした。この1年半、毎日、毎晩のように、堀越千秋と対話していたような気がする。

「おーい、堀越、これでいいかい」と、作品の選定、そして執筆、ページ割付、装丁デザインまで。夢の中でも彼と対話していた。

本作りの資金は、堀越を慕う300名もの方のネット募金を集めることができ、より充実した内容にすることができた。これも堀越の人柄のなせる技である。お陰で本の体裁はずいぶん立派なものにすることができた。A4判変型、上製、麻布クロス箔押し、本文576ページ、うちカラー504ページ、本文用紙はすべて「Mr.Bホワイト」と最高の美術用紙（竹尾扱い）。近年にない本格画集を作ることができた。

公立の美術館で堀越千秋展を

7月30日から8月4日まで、神保町のすずらん通りにある檜画廊で、「堀越千秋画集出版記念展」が開催され、そこで画集のお披露目と書店発売に先駆けて即売があった。なんと驚いたことに、6日間の開催中に本体18,000円のこの高価な画集が58冊も売れたのである。

「おーい堀越さん、みんなが画集を見てくれたぞ、嬉しいじゃないか」

きっと堀越がどこかで喜んでいるに違いない。

この画集が大勢の人の手に渡り、堀越千秋の作品が多くの人の眼にふれ、心に残ってくれればと願う。そして 近い将来、公立の美術館で「堀越千秋展」が開催できればと思っている。

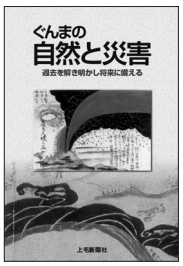
★『堀越千秋画集』の詳しい案内は「大原哲夫ホームページ」をご覧ください。
https://oharatetsuo.jimdo.com

（おおはら　てつお／大原哲夫編集室代表）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『ぐんまの自然と災害』●「ぐんまの自然と災害」編集委員会編



大きな自然災害が繰り返されるこの頃だが、豊かな自然に恵まれた群馬県は、自然災害が少ないとの安全神話が先行しているという。だが、風光明媚な景観は、何万何億年に及ぶ噴火、洪水、地震、地すべりといった大地の営みによって形成されたものだ。それは自然現象だが、人がいれば災害になる。大地の経験を解き明かし、そこに潜む将来の災害の危険性を知ろうと、地質学者、学校教師、地学愛好家で構成する県内地学団体研究会上げて取り組み、ハンドブック風にまとめたもの。

始めに、群馬県の大地の形が作られた経過や災害の全体像を解説。続いて、古墳時代以来の火山、地震、地盤、土砂、台風、気象各災害について、天明の浅間山噴火、4年前の前橋市大雪等それぞれ10件前後の事例を示して解説。最後に天気俚諺、祖先が残した災害記録など防災文化誌を掲げる。自然を正しく学び、経験を伝承することの大切さを教えてくれる、まさに時宜を得た一書である。

◆ 1,512円・四六判・192頁・**上毛新聞社**・群馬・2018/6刊・ISBN9784863522121

『わが日常茶飯　－立ち飲み屋「ヒグラシ文庫」店主の馳走帳』●中原蒼二著

夜の鳥で、知恵の象徴であるミミズクが看板に描かれ、「店はせまい、でも遠くへつながっている」という店主の惹句が記されている「ヒグラシ文庫」。鎌倉と大船に２店を構え、立ち飲み屋でありながら古書を売り、立ち読みも出来る、酒好き本好きにはたまらない店である。もちろん酒だけではなく、料理も絶品。1969年、20歳の頃に新聞に掲載されていた檀一雄の『檀流クッキング』がきっか けで、自分で食うものを自分で作るようになった著者。また同時期に江原恵の『庖丁文化論』とも出会い、この二人から影響を受けた。演劇・舞踏や都市文化施設計画のプロデュースを手掛ける多才な著者だが、東日本大震災後、家と仕事先だけではなく、もう一つの「場所」が必要と自分で作った店はオープンから７年が経ち「名物」も登場。そんなメニューの裏側を語ったレシピエッセイ集。看板の作者、牧野伊三夫をはじめ６名による推薦文小冊子付。逗子在住の有高唯之による料理などの写真も逸品である。

◆ 1,599円・Ｂ６判・174頁・**星羊社**・神奈川・2018/6刊・ISBN9784990845988

『探訪　比企一族　－鎌倉幕府設立の立役者比企一族・真実探しの旅　増補新版』●西村　裕著

比企一族といえば、鎌倉幕府草創期の有力御家人の一人、比企能員を思い起こす人が多いことだろう。さらに、能員の養母・比企尼が乳母として流人時代の源頼朝を物心両面から支援し続けたことを御存じならば、おそらく一度は「吾妻鏡」の世界に魅せられたことのある人に違いない。

本書は、そんな歴史愛好家たちにとって読み応えのある内容となっている。読後とくに感じたのは、比企氏の女性たちの存在感だ。比企尼と三人の娘、それに孫たち。丹後内侍（長女・島津忠久の母）・二女（河越重頼の妻）・三女（伊東祐清の妻）・若狭局（源頼家の妻）・姫ノ前（北条義時の妻）・郷姫（源義経の妻）・竹の御所（頼家と若狭局の娘）。掲げただけでも、彼女らが歴史の渦に翻弄されたであろうことが想像つくだろう。『吾妻鏡』だけでは窺い知ることの出来ない彼女たちの歴史を、各地に残る伝承や史跡から浮き彫りにしているのが本書の特色。増補新版として九州地方の伝承を新たに追加。

◆ 1,836円・Ａ５判・338頁・**まつやま書房**・埼玉・2018/6刊・ISBN9784896231137

『世界遺産鉄道　－上信電鉄０番線からの旅』●上毛新聞社編

高崎駅から南西へ吉井・富岡を経て下仁田に至る上信電鉄。本書はそんな上信電鉄の沿線ガイドです。鄙びたローカル線かと思いきや実は沿線は見どころが沢山。一番の目玉は何といっても世界遺産の富岡製糸場、終点の下仁田駅の先にある荒船風穴も世界遺産、まさに世界遺産鉄道の言葉に偽りなし。

しかし沿線には他にも世界に輝く遺産があります。ひとつはユネスコの「世界の記憶」に登録された上野三碑。金井沢碑・山上碑・多胡碑の三つの石碑は奈良時代の息吹を今に伝えます。そしてもうひとつは「世界かんがい施設遺産」長野堰用水と雄川堰。前者は高崎、後者は小幡の街と田畑を潤すと共に、涼やかな水辺の風景を作り出しています。ほかにも上野国一の宮である貫前神社や昔ながらの町並みが残る城下町小幡など、訪れたい場所が盛りだくさん。鉄道ファンには気になる、趣ある木造駅舎も紹介されています。本書で予習を済ませたら次の休みはぜひ高崎駅０番ホームへ！

◆ 1,080円・Ａ５判・91頁・**上毛新聞社**・群馬・2018/6刊・ISBN9784863522084

『さすらひ人綺譚』●神山奉子著

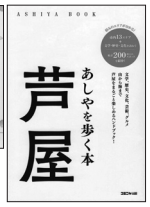
収録された三作品の時代設定はどれも江戸後期あたりだろうか。現在の栃木県北部から福島県にかけての地域を舞台としている。冒頭の作品『蛇姫』に、登場人物が次のように言う場面がある。「…里人は田畑を耕して田畑につながれて暮しておる。だが薬師、傀儡師、木地師らは、仕事のある間はその地に留るが、仕事が終わればまたさすらって行く。果てなきさすらいを繰り返して、また天地の間より消えてゆく…」この台詞が本作品集の輪郭を描いている。かと言って化外の民の外部性という図式を衒う意図はなく、「さすらひ」を宿命づけられた少女たちの葛藤や成長に焦点が当てられている。『蛇姫』の沙良は、山の薬師集団に育てられ、己の血を蛇毒への抵毒血清とした蛇姫として放浪しつつ、見知らぬ母の実像を追っていく。『鬼子母人形館』の梢は、自分が育てられた傀儡師集団の謎と過去を知ろうとして夢か現かもわからぬ世界を突き進む。『芹沢薄明』の千芹を漂泊へと追いやったのは、由緒ある生家の没落が招いた底知れぬ虚無と罪の意識である。

◆ 1,512円・四六判・405頁・**下野新聞社**・栃木・2018/6刊・ISBN9784882867074

売行良好書　期間：2018年7月15日～8月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『ひとり　句集』2160円・深夜叢書社　(2)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(3)『ようこそ、読書のアニマシオンへ』1944円・南方新社　(4)『しろさんのレモネードやさん』1512円・吉備人出版　(5)『芦屋　あしやを歩く本』800円・コミニケ出版　(6)『こないだ』2160円・編集工房ノア　(7)『夏がとまらない』1080円・ナナロク社　(8)『葉山・鎌倉カフェストーリー』1404円・書肆侃侃房　(9)『中国情報ハンドブック　２０１８年版』3240円・蒼蒼社　(10)『土石流のチカラ』1296円・吉備人出版　(11)『ハトと日本人』1836円・弦書房　(12)『セミと仲間の図鑑　フィールド版』1620円・トンボ出版　(13)『日光パーフェクトガイド　改訂新版』1620円・下野新聞社　(14)『だけど　だいじょうぶ』1944円・石風社



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『旅する本の雑誌』1728円・本の雑誌社　(2)『ねむらない樹　ｖｏｌ．１』1404円・書肆侃侃房　(3)『本の雑誌　４２３号』720円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　８月号』500円・東京かわら版　(5)『こないだ』2160円・編集工房ノア　(6)『お二階へご案内～』1080円・東京かわら版　(7)『ひとり』2160円・深夜叢書社　(8)『極秘諸国城図図版集』3240円・山陰中央新報社　(9)『北朝鮮のミサイルはなぜ日本に落ちないのか』1836円・白馬社　(10)『ナガサキの郵便配達』873円・スーパーエディション

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本一センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『短歌ムック　ねむらない樹　ｖｏｌ．１』1404円・書肆侃侃房　(2)『こないだ』2160円・編集工房ノア　(3)『極秘諸国城図　図版集』3240円・山陰中央新報社　(4)『「学力日本一」の村』1836円・無明舎出版　(5)『松浦武四郎入門』1080円・月兎舎　(6)『ナガサキの郵便配達』874円・スーパーエディション　(7)『探訪栃木山』2700円・随想舎　(8)『新訂　ジュニア版　琉球沖縄史』1620円・編集工房東洋企画　(9)『蘇る記憶３』1201円・奥会津書房　(10)『島津日新公いろは歌』540円・高城書房　(11)『埼玉の城』2700円・まつやま書房

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼今号一面にある大原哲夫さんによる【**堀越千秋画集**】については、読売新聞7月28日朝刊「時の余白」にて【生命記憶語る天性の筆】と題して大きく紹介されました。堀越氏の東京藝大時代の恩師、解剖学者で【胎児の世界】（中公新書）や【海・呼吸・古代形象】（うぶすな書院）の著者である三木成夫氏との関連にも触れられています。

▼山口県周南市で古書店「**マツノ書店**」を経営しながら、幕末明治維新期の史料や研究書の復刻出版を300点近く手がけた松村久さんが8月10日、85歳で亡くなったとのことです。2007年には、この出版活動が「地方の一個人古書店ながら、社会的文化的貢献を行っている」と評価され、菊池寛賞を受賞されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

▼長崎の日本原水爆被害者団体協議会代表委員を努めた、故・谷口稜曄（すみてる）さんを描いたピーター・タウンゼント著／中里重恭訳／海渡千佳監修【**ナガサキの郵便配達**】（本体809円ISBN978-4-915743-16-0スーパーエディション刊）が刊行されました。本書はもともと1984年に英語とフランス語で出版され、日本では早川書房から9章分短いフランス語版の邦訳が出ましたが絶版となっていました。今回は英語版からの完全訳です。この谷口さんの体験を映画化することも決まっています。タウンゼント氏の娘で世界的トップモデルのイザベル・タウンゼントさんが父の取材先の長崎などの足跡をたどり、父からのメッセージを繙いていくという設定で、監督と脚本は川瀬美香さん、2019年完成予定とのことです。

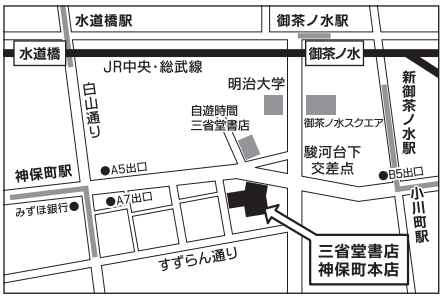
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。